

モデル事業名	新しい伊豆松崎での過ごし方プロデュースのしくみづくり事業
活動団体名	岩地海の体験学習誘致協議会、特定非営利活動法人エヌ・ピー・オー伊豆
ホームページ	http://iwachi-taiken.com/
所属/ 担当者名	NPO 法人エヌ・ピー・オー伊豆専務理事 田中孝治
連絡先	054-273-8041 (エヌ・ピー・オー伊豆 (静岡事務所)) k.tanaka-tisanken@cotton.ocn.ne.jp
活動地域	静岡県松崎町

### ● 活動地域の概要

○松崎町全体：集落数4地区（松崎、中川、岩科、三浦）○人口推移：昭和25年の国勢調査14,162人をピークに減少、昭和50年から3～5%の緩やかな減少率。平成22年1月現在、7,638人。高齢化率は昭和40年10.8%が、平成12年に30.0%を越えた。

○主たる活動地区：三浦（サンポ）地区（岩地、石部、雲見の3地区で構成）。平成12年国勢調査1,091人、同17年調査では985人に減少、町平均の減少率より高い。高齢化率の34.3%から41.2%。

○産業：松崎町は、かつて養蚕、漁業等、経済的に繁栄。昭和40年代から漁業、農業から観光業を中心とする第三次産業に移行。三浦地区は、昭和40年代頃、農業、漁業から専業、兼業による民宿経営へ転換。昭和60年の180軒をピークに減少、平成21年現在87軒、岩地、石部の減少率が高い。



【位置図】



【海の体験学習に取り組む岩地地区】



【石部の棚田、オーナー制度で保全】

● 活動地域の課題 「民宿」発祥地の一つ。民宿経営最盛期は昭和45年頃から昭和60年代（日本人の大衆観光の動向と一致）。以後、減少。岩地地区のピークは昭和50年～60年の54軒、現在は28軒。同じく石部地区は、昭和60年の42軒が11軒。雲見地区は、昭和55年の85軒が48軒。岩地は48.2%減、73.8%減、43.5%減。観光形態、宿泊形態の変化に翻弄。民宿経営の安定化、海水浴以外の稼働率向上。岩地は平成12年から「体験型修学旅行」（主に中学生、延べ9,230人）、石部は平成11年から棚田の復元、雲見は漁協によるダイビング客の受け入れ。民宿経営者の77%が60歳以上、民宿経営は危機的状況。小学校（石部）や漁協の統廃合（岩地）、地域コミュニティの拠点が失われている。①観光ニーズの変化②地域の高齢化③地域コミュニティ拠点の消失＝三重苦「民宿」の休廃業、経済基盤の崩壊は、結果的に地域コミュニティの崩壊に繋がる。

### ● 活動の内容

・平成20年度

#### 1. 地域外組織との連携による地域プロデュースのしくみづくり

- 1) 地域プロデュース協議会の設置（岩地海の体験学習誘致協議会の発足。受入実現）
- 2) 体験学習メニューの開発（専門事業者との連携、高齢化に対応した持続可能な体験メニュー開発）
- 3) PRツールの制作（新体制によるプロモーションに必要なPRツール）

#### 2. ニュースタイル民宿の確立に向けた可能性調査

- 1) 民宿アンケート（民宿経営の実態と意向調査）
- 2) 建物調査（長期滞在、空き部屋対策、部屋の改造プランと資金計画シュミレーション）

・平成21年度

#### 1. 休業・廃業民宿の活用に向けた調査・研究

- 1) 地域ニーズの調査（再活用に関心のある民宿、現況、問題点、要望等）
- 2) 専門家ヒヤリング、先進地、類似事例の調査（課題解決策、二地点間居住の受け入れ）
- 3) 休業・廃業民宿活用提案づくり（受け入れ窓口、契約内容等、実現に繋がる提案作成）

#### 2. 特色ある伊豆松崎の過ごし方提案

- 1) 地域・民宿資源の調査（子どもの体験学習、大人の体験観光に向けた民宿・地域資源の調査・研究）
- 2) 滞在モデル実験（地域・民宿の特色を活かした滞在モニター旅行の実施）
- 3) 松崎での過ごし方提案づくり（新たなターゲット、滞在スタイルの提案）

#### 3. コンソーシアムの拡充（岩地海の体験学習誘致協議会の拡充、全町組織の検討）

## ●活動の成果

### ・20年度

1. **地区プロデュース協議会の設置** 1) 岩地海の体験学習誘致協議会の発足 新たな担い手組織。地区外組織(町、民間事業者、NPO等)との連携によるマーケティング力、体験メニューの充実と安定的実施体制づくりが実現。2) 誘致実績 予約5校、問い合わせ14件。
2. **体験学習メニューの開発** 従来のメニューに加えブギーボード、ラフトボード、砂アート等、新しい体験メニュー開発。民間事業者との連携、地域の負担を軽減したメニュー開発、持続可能な実施体制開発。
3. **PRツールの制作** 民宿の個別取材 会合では発見できない魅力再発見と実用化。
4. **ニュースタイル民宿の確立に向けた可能性調査** 今後、確実に増えていく休廃業、空き部屋対策へ具体的な提案。可能性、問題点(民宿経営者の本音、不安)が浮き彫り。
5. **地区内の反応** 専業(設備投資)、兼業、休廃業。事業の受け止め多様、きめ細かな対応が必要。持続可能な体制づくり。

①



②



③



- ①漁村の暮らしを伝える
- ②体験メニューの棚田
- ③松崎の伝統鏝絵

### ・21年度

#### 1. 休廃業民宿の活用に向けた調査・研究

1) 民宿経営者の意向(不安、切実さが希薄)を受け、実現可能な仕組みづくりを検討、立案、提案。休廃業の旅館、ホテル、民宿が地域経済、景観等に影響。反面、新しいビジネスチャンスとの見方(全国に同じ問題)。  
[民宿]は比較的短期(1年から1シーズン)、賃借形態(私物を置く) 2) 受入体制づくり「受入窓口一仲介・契約(契約書の雛形)一管理」一環した仕組みの開発と提案。

#### 2. 特色ある伊豆松崎の過ごし方提案

1) ターゲットの拡大 「体験」をキーワード、子どもから大人までターゲット拡大。それに見合う体験メニューと提供方法を開発。料理専門家やお年寄りによる伝統食の復活、盛り付け方等の指導教室。2) 子どもプロジェクト等、新たな取り組み。

#### 3. 地区内への波及

地区内で埋もれている資源掘り起こし。子どもプロジェクトなど新たな取り組み。

#### 4. 地区外への波及

平成21年1月25日、「松崎町グリーンツーリズム推進協議会」で全町的取り組みへの話し合い。



●オオクラチエコさん(料理家)を講師に民宿料理ブラッシュアップ教室。「さつままち」が人気商品に?



●岩地地区内の埋もれた魅力再発見。石垣の段々畑、伊豆石の蔵、アロエやオレンジの畑。

## ●今後の課題及び展望

### ・課題

1. 「岩地海の体験学習誘致協議会」の強化、マーケティング力の向上 体験メニューの開発と持続可能(人気のある地引網、漁業者の高齢化で実施困難。技術伝承が急務)な仕組みづくり。具体的な他地区との連携(荒天対策、利用者ニーズ)プログラム。

2. 全町的な取り組み 全町的な取り組み機運が盛り上がってきた。岩地地区のコンソーシアムのノウハウ、体験学習マニュアル等を活かし、全町的な仕組みづくりへ。

### ・展望

1. 新町長(岩地体験型修学旅行の提案者)の登場 「体験型観光」に取り組む機運が生まれている。

2. 新しい人材の登場 Uターン、移住等、新たな人材が登場 地域参加への機会を求めている。3) 松崎町開発公社等、町全体を担うコンソーシアムの設置について検討機運が生まれる。